



【ツーリズム】

「グリーン・ツーリズム」で外国人客をおもてなし

農家や漁師の家に泊まりて農漁業を体験する「グリーン・ツーリズム」の活性化に青森県が力を入れている。

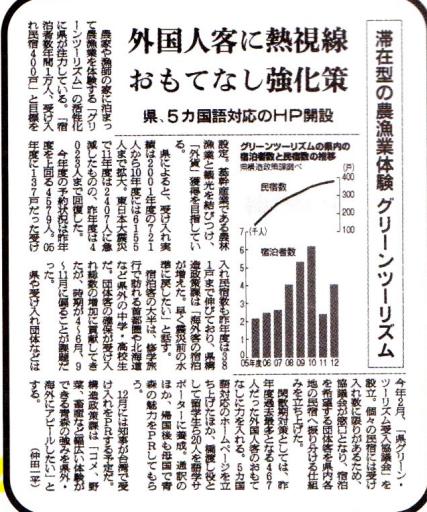
「宿泊者数年間1万人、受け入れ民宿400戸」と目標を設定。基幹産業である農林漁業と観光を結びつけ、「外貨」獲得を目指している。

青森県や受け入れ団体などは2013年2月、「青森県グリーン・ツーリズム受入協議会」を設立。

個々の民宿には受け入れ数に限りがあるため、協議会

が窓口となり、団体客を各地の民宿へ振り分ける仕組みをつくった。

修学旅行の中学生は宿泊客の大半は



高校生で、時期が4～6月、9～11月に偏ることが課題だった。閑散期対策としては、昨年度過去最多となる467人だった外国人客のおもてなしに力を入れる。5カ国語対応のホームページを開設したほか、橋渡し役として留学生ら20人を語学サポートに養成。通訳のほか、帰国後も母国で青森の魅力をPRしてもらう。

「観光立国・日本」に向けておもてなし産業を強化

観光は日本の成長分野として期待されており、国としても「観光立国」へ向けて、日本を訪れる外国人客を増やすことに力を入れています。記事にある青森県の「グリーン・ツーリズム」のケースも、「外貨」獲得が目的ですから、まさに外国人のお客さまに対しての観光産業の強化策ということになります。記事では青森の例を取り上げていますが、各地の自治体でこうした動きは活発になっています。

ツアーの形態も、変わりつつあります。これまでには出発地の人がツアーを組んで収益を得ていましたが、今後は旅の到着地である地元の人が開発するツアーである「着地型観光」が広がっていくでしょう。やはり地元の人が一番その良さを分かっていますから。そのうえで、今後はさらに訪れる外国人の立場に立った工夫も加えていかなければなりません。相手の国によってマーケティングの手法を変えたり、言語をどうするかなど、課題も多くあります。

旅行や観光に関する幅広いスキルを身につける

桜美林大学のビジネスマネジメント学類では、本当のおもてなしとは何か、旅行会社の経営、世界中に発信する方法、マーケティングの手法など、観光のさまざまな場面で対応するスキルを学ぶことができます。他学群の授業も受けられますから、例えばリベラルアーツ学群の授業では地域研究、を学べます。また健康福祉学群の介護などの授業も、バリアフリー・ツアーなどを企画するときに役



ビジネスマネジメント学群
ビジネスマネジメント学類
教授 鈴木 勝 先生

JTB(日本交通公社)・大阪観光大学教授を経て、2008年より現職。専門は国際ツーリズム振興論・観光マーケティング論。

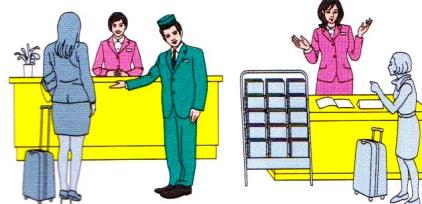
立することができますね。

私の授業では、学生の海外実習を行っています。2013年度はオーストラリアに行き、航空会社や旅行会社、ホテル、政府観光局などを見学し、話を伺いました。往復の飛行機に乗っているときも、客室乗務員の対応やアナウンスを見聞きすることが勉強になります。実体験を積み重ねることで、幅広いシーンに対応できる力を養っていくのです。

▽関連する学びはこれだ!▽

英語専攻	中国語専攻	日本地域研究専攻
プログラム▶054	プログラム▶055	プログラム▶071
社会学専攻	メディア(ジャーナリズム)専攻	ICTビジネス
プログラム▶075	プログラム▶079	プログラム▶097
観光・ホスピタリティ・エンターテイメントビジネス	経営戦略・管理	プログラム▶099
プログラム▶098		

▽将来こんな事が目指せます!▽



ホスピタリティ業界

ホテルのスタッフ、プライダル業界、テーマパークなどで働く。



旅行会社

旅行の企画の立案・開発やコーディネートなど、旅行に関する幅広い業務を行うことができます。

公務員

県庁や市役所の観光課などで、旅行客の誘致を行う。地域振興課などでも、観光分野の視点が生かせます。